

しが国際協力親善大使レポート

やまむら れな
山村 玲奈さん

隊次：2017年度1次隊

職種：PCインストラクター

派遣国：ガーナ

自己紹介

協力隊へ参加する前は IT 企業で法人営業をしていました。協力隊は大学生の頃に知り、地域に入り込んで支援や生活ができるとのことで興味を持っていました。新卒で入社した会社を最低三年は続けると決めており、三年目に突入した時応募を決意し今に至ります。せっかく行くのであれば、アジアではなくアフリカへ行きたいとの思いがありました。

活動されている国、地域の気候や文化の紹介

私が派遣されているのは西アフリカに位置するガーナという国です。チョコレートの商品名により日本では知らない人の方が少ないのではないかと思います。アフリカのどこに位置するかまでは知らない人が多いのではないのでしょうか。気候は熱帯気候のため蒸暑く、25~30 度です。雨季と乾季があり、雨季は海からの風が多く雨をもたらす、乾季はサハラ砂漠からの風が乾燥と砂埃を運んできます。雨季は多く雨が降る為作物が豊富に取れますが、乾季は雨がほとんど降らない為、水不足により作物の野菜や果物の価格が高騰します。

活動や生活について

私の活動内容は、私立の女子職業訓練校で ICT の授業およびアドバイスをするというものでした。ボランティアは私で三代目となり、前任が PC 導入に尽力してくれたお陰で幸い環境は整っていました。しかし、私がガーナへ赴任する数カ月前に ICT 講師は辞めてしまい、新規採用した ICT 講師も一週間で来なくなり、ICT 講師はボランティアである私一人という状況になってしまいました。そして初めにぶつかった壁は言葉の壁でした。ガーナの教育は基本的に全て英語で行われていますが、ガーナ独特のガーナイングリッシュとお互いの発音の癖の違いにより、英語での説明が思うように伝わりません。私の英語レベルも決して高いとは言えませんが英語が苦手な生徒も多く、他教科の先生も英語での授業は苦労していて現地語を織り交ぜながら授業していると聞きます。授業をするほどの現地語を話せない私は、私の英語を理解してくれた一部の生徒にお願いして他の生徒へ代わりに説明してもらっています。

私の活動するアシャンティ州は、他の地域と比べて比較的中流家庭以上が多いように感じます。また、所属する学校は私立ということもあり、劇的に貧しい家庭の子はいないようですが、今まで PC に触れたことのない子は多くいます。小中学校でも ICT は必須ですが、PC の台数が十分ではなく板書だけで PC 操作や Office 操作を習っているケースが多いから

です。タイピングするときに指一本で全てのキーを叩いている生徒もいますし、改行の仕方や大文字の打ち方といった私たちが当たり前だと思っていたことができない生徒も多くいます。ガーナの社会で生きていくにおいて PC スキルなしで生活していくことは可能ですが、一つでも多くの職業選択肢を切り開くためにも、最低限の PC スキルは必要ではないかと私は考えます。学校より車で約 15 分の場所にある最近できた近代的なショッピングモールでは、ほとんどの店で POS システム（売上データを管理するこのできるレジ）が導入されており、PC 操作ができるにこしたことはないと考えます。PC のことを苦手と思わないような楽しい授業をしようと、ICT の授業の中で日本語を少し教えています。生徒はとても意欲的に日本語を学んでくれます。日本語をローマ字でタイピングするなど少しでも楽しんでもらいながらも、PC スキルを身につける授業を心がけています。



学校の前の道をまっすぐ進むと行きつく琵琶湖のようなボソムチュイ湖



授業風景



いつも仲良くしてくれる家族



学校で子守のお手伝い



生徒にダンスを教わっているところ